

平成 16 年度

# 私立高入試の概況

平成 16 年 3 月

新教育研究協会

# 平成 16 年度 私立高入試の概況

## 1. 募集校数と募集人員

### 募集校数と共学化

平成 16 年度から高校募集を停止した学校は品川女子学院の 1 校で、都内私立高校の高校募集校数は 194 校になりました。

また、男子校だった「昭和鉄道」、「関東第一」、「成立学園（現 成立）」、女子校だった「桜丘（現 桜丘女子）」、「武蔵野」が男女共学になりました。

### 募集人員

男女校別の募集校数と募集人員は次の通りです。

表 1 男女校別募集校数と募集人員（マイナス：）

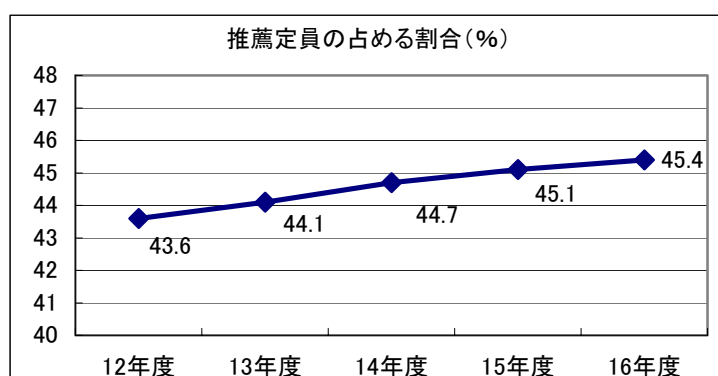
区分	16年度		15年度		増減	
男子校	39校	7,442	42校	8,637	△ 3	△ 1,195
女子校	68	13,287	71	14,729	△ 3	△ 1,442
男女校	87	23,005	82	21,434	5	1,571
計	194	43,734	195	44,800	△ 1	△ 1,066

### 入試区分別募集状況

推薦入試は前年度と同じ 180 校で実施しましたが、推薦枠は拡大しており全体の募集数に占める割合は上昇しています。

表 2 入試区分別募集状況

区分	推薦入試		一般入試		計	
	学校数	募集人員	学校数	募集人員	学校数	募集人員
男子校	30	3,086	38	4,356	39	7,442
女子校	67	6,262	68	7,025	68	13,287
男女校	83	10,520	87	12,485	87	23,005
計	180	19,868	193	23,866	194	43,734
%	92.8	45.4	99.5	54.6	100.0	100.0



## 2. 推薦入試

### 推薦入試新規導入

今年度、新たに次の3校が推薦入試を導入しました。

成城学園，桐朋，桐朋女子

### B推薦（推薦）ますます拡大

併願可能な推薦制度，いわゆるB推薦（推薦）を今年度新たに設置した高校は次の通りです。

神田女学園，東京家政学院，東京実業，多摩大目黒，駒澤大学，国士館，国本女子，日本大学桜丘，城西大城西，星美学園，国立音楽大学

これで都内私立高の推薦実施校180のうち，87校（48%）がこの制度を採用していることとなります（弊社調べ）。

一方で，推薦基準には達しないが，第一志望の生徒を対象とした推薦制度も徐々に増加しています。

### 絶対評価等による内申基準の変更

絶対評価導入2年目になり，前年度入学生の学力が判明し，高めに評価される内申に対応して基準を上げる高校が増えるのではないかと予想されていましたが，多くの学校では現状維持とし，基準を上げた高校は36校にすぎませんでした。逆に基準を下げた高校も24校ほどあり，学力維持が生徒数確保かで各校は厳しい選択を迫られたようです。

### 推薦入試状況

#### ● 推薦入試新規実施校の状況

学校名	学科	募集	応募	受験	合格
成城学園	普通	15			
桐朋	普通	10	37	37	10
桐朋女子	普通	10	9	9	9

#### ● 内申基準値を上げた高校の推薦入試状況

全般的には応募者数を減らした高校が多かったようです。しかし，前年度とほぼ同じか，減ったとしても微減に過ぎなかった学校と，大幅に減少した学校があり，明暗を分けました。

**嘉悦女子**・9科28or5科16 9科29or5科16と9科1ポイントアップ。応募者数は前年度85人から41人へと半減（定員は70人）。

**明治学院**・9科34 36と2ポイントアップ。応募者数は男子180 83人，女子232 173人と大幅に減少したが定員（男女各60人）は確保した。

**文京学院大学女子**・進学コースの基準を推薦A Bとも9科30 31へと1ポイントアップ。応募者数は定員減(157 70人)の影響もあり、A B合わせて107 79人と約25%減。

**小野学園女子**・総合コースの基準を9科22or3科7 9科23or3科8とそれぞれ1ポイントアップ。オープン推薦導入(内申に「1」がなければ受験可、適性検査受ける)の効果もあって応募者数は52 48人と微減に留まる。一方で推薦と同じ基準の一般入試では190 91人と大幅に減らした。

**文教大附属**・5科17or3科11 5科18or3科12とそれぞれ1ポイントアップ。推薦定員を10人減らし55人としたが、応募者数は72 65人と微減。

**武蔵工業大学**・5科19 20と1ポイントアップしたが、応募者数は57 54人と前年度並みを維持した。

**宝仙学園**・総合進学コースの基準を9科23 25と2ポイントアップ。しかし、応募者数は67 72人とむしろ増加した。

**青山学院**・9科男子36 37,女子39 40と1ポイントアップ。応募者数が214 159人と25%の減となった。

**豊島学院**・特進コースの基準を推薦A:9科35or5科19 9科35or5科20と1ポイントアップ。Bも同様に1ポイントアップ。応募者数は198 131人と約70人の減となった。総合進学コースは推薦A:9科29or5科16 9科31or5科17と9科で2ポイント,5科で1ポイントアップした。Bも同様。定員を100 78人に減らしたこともあり、応募者数は889 552人と大幅に減。

**昭和鉄道**・推薦Aの基準を9科25or5科14 9科27or5科15と9科で2ポイント,5科で1ポイントアップ。応募者数は共学化も手伝って、運輸80 93人,機関51 68人と増加した。

**豊南**・推薦Aを男子5科13,女子5科12 5科14,Bを男子5科15,女子5科14 5科16へと変更。別学から共学となったこともあり,A:51 64人,B:31 64人とBは倍増した。

**江戸川女子**・類・類・英語の基準をそれぞれ1ポイントアップした。応募者数は類48 61人,類47 34人,英語36 35人と全体的にはほぼ前年度並みとなった。

**法政第一**・9科36 38と2ポイントアップ。前年度は前々年度と同じ基準で、志願者は大幅増だったが、今年度は一転して244 123人と半減した。しかし、定員73人は確保。

**大成**・普通コースは9科23 25と2ポイントアップ。応募者数は150 100人と3割減。新校舎完成,風のミュージアム効果はこれからか。

**明星**・9科30 31と1ポイントアップ。定員を大幅に減らしたことの影響もあり応募者数は男女合わせて152 80人と半減。2004年8月新校舎完成予定。

**錦城**・普通コース5科男20 21,女21 22と1ポイントアップ。英語,理数コースもそれぞれ5科1ポイントアップ。応募者数は,普227 165人,英21 21人,理23 16人と普通コースの減が目立つ。

**武蔵野女子学院**・9科33or5科18 9科33or5科19と5科の基準を1ポイントアップ。応募者数は121 96人と25人の減。一般入試も微減。注目された薬学は推薦10人募集に対し31人が応募。

**文華女子**・推薦Aの第一基準を9科26 27と1ポイントアップ。第二基準は変更せず。

応募者数は 252 262 人とほぼ横ばい。

#### ● 内申基準を下げた高校の応募状況

応募者数を増やした高校が多かったようです。特に B 推薦導入も合わせて行った神田女学園，日大桜丘などは大幅に増加しました。その一方で前年度並みで留まった高校もあり，内申基準のダウンが即応募者増には結びついていないようです。

**神田女学園**・9 科 25 22 へと 3 ポイントダウン。合わせて B 推薦も導入。応募者数は 64 241 人と約 4 倍に。しかし，一般の応募者数が 297 104 人と約 3 分の 1 に減ってしまい，一般応募者が B 推薦にシフトしただけだった。

**東京家政学院**・9 科 34or 5 科 19 9 科 32or 5 科 16 と変更。合わせて，併願推薦も 9 科 33or 5 科 17 で導入。応募者数は 8 40 人と大幅増。一般優遇制度も新設したが，こちらは効果なし。

**順心女子**・9 科 27or 3 科 9 推薦 A：9 科 24or 3 科 9，B：9 科 25or 3 科 9 と変更。応募者は，A：22 48 人，B：115 140 人と増加した。

**日大豊山**・推薦 A：5 科 22 21，B：5 科 18 15 と B を 3 ポイント下げた。その結果，推薦応募者が 294 409 人と大幅に増加した。

**自由ヶ丘学園**・推薦 B (単願) を 9 科 18 16 とオール 2 ラインを切った。A は変わらず。推薦応募者数は 105 268 人と大幅増。

**日大桜丘**・推薦 (単) を 5 科男 21，女 22 20 に変更。合わせて併願推薦を 5 科 21 で新設。応募者数は 175 968 人と激増した。推薦不合格者 (単・併とも) の再受験も優遇されることも応募増に拍車をかけたようだ。一般入試も 357 881 人と約 500 人増えた。

**東京立正**・9 科男 28，女 27 27 と男の基準を下げた。しかし応募者数は 93 105 人と微増に留まった。

**工学院大学附属**・推薦 A の基準を 5 科 20or 3 科 12 5 科 19or 3 科 12 と 9 科を 1 ポイント下げた。推薦応募者数は，122 119 人とほとんど変わらず。一般入試併願優遇の基準値も 5 科で 1 ポイント下げたが，こちらも 403 420 人と変化なし。

**共立第二**・推薦 A の基準を 9 科 36or 5 科 20 9 科 32or 5 科 18 と大幅にダウン。B は変わらず。また，一般入試の併願優遇制度も 5 科 20 で新設。推薦応募者数は A が 32 60 人とほぼ倍増。B も 81 101 人と 20 人の増。一般入試でも 22 43 人と倍増した。

**桜華女学院**・普通コース推薦 A を 9 科 23 22 に。B は変わらず。応募者数は 154 162 人と 5 % 増。一般入試併願優遇の基準も 9 科 1 ポイント下げたが応募者数は 192 202 人とこちらも 5 % 増。

#### ● そのほかの高校の推薦入試状況

このほかの推薦応募状況をいくつかみてみましょう。

**青稜**・前年度は応募減覚悟で基準をアップ。今年度は前年度のままとした。応募者は 35 60 人と前々年度 (53 人) の水準まで戻した。

**駒込**・推薦基準に 5 科基準を追加。新校舎効果もあって推薦応募者数は 602 637 人と 5 %

増。

**国士館**・推薦定員を 70 130 人へ増やし，併願推薦を設置。応募者数は 97 124 人と増加した。

**多摩大目黒**・同じく B 推薦を 9 科 36 , 3 科 12 で導入。応募者数が 98 216 人に倍増した。

女子校から共学校になった桜丘（現「桜丘女子」）は 351 846 人と大幅に増加した。

**武蔵野**も特進(共学)が 49 213 人と前年度の約 4 倍の応募者を集めたほか，女子のみ募集の「ムサシノ」も 240 389 人と大幅に増加した。

**関東第一**も共学となった普通科 3 コース（進学・普通・ｽﾎｰｯ）はいずれも応募者増（普通科全体で 95 225 人）となった。

**中央大学杉並**は基準変更せず応募者は 214 272 人と増加。

**中央大学附属**は前年度「内申基準なし」による爆発的な人気はやや落ち着き 938 705 人と約 230 人の減となった。それでも合格者の平均内申は，男子 41.0 40.6 , 女子 41.8 42.1 と変化はない。内申 38 ~ 41 の生徒が前年度より増加している。

**東京農業大学第一**・推薦基準の 9 科の基準と 3 科のうち 1 科「5」という基準をなくし，5 科 18 のみにした。B 推薦 2 型の内申基準をやめて自己 P R 型に変更した。推薦応募者数は 488 377 人と約 100 人の減となった。

このほか，基準値を前年度のままとした上位校は応募者数を増やしたところが多い。

**東海大高輪台**・288 350 人

**豊島岡女子**・251 282 人

**日大一**・104 136 人

**日大二**・113 144 人

以上みてきたように，都内私立高校の推薦入試は複雑化の一途を辿っており，しかも変動が激しく，各校が毎年のように推薦基準や選抜方法を変更しています。そしてそれが応募者の増減に影響を与え，進学指導をより一層難しくしています。

推薦入試は，来年度も今年度以上に多様化してくるものと思われます。各校の変化をいち早くつかみ，受験生に対して適切な指導，アドバイスをすることが重要になってきています。

### 3. 一般入試

#### 中間応募状況

1月30日東京都生活文化局私学部から発表された「都内私立高校一般入試入学応募状況(中間)」によると、一般入試の募集人員23,886人に対し、1月28日現在の応募者数は57,160人、中間応募倍率は2.39倍となりました。次の表をみてもわかるように、一般入試の応募倍率は年々下がってきています。これは、中学3年生の在籍者数の減少と高い都立志向のせいだけとは必ずしもいえません。

今まで見てきたように、推薦入試は拡大する一方で、しかも併願可能な推薦制度導入校も増加しており、私立高第一志望者はもちろん第二志望者も推薦入試を受験している結果が中間倍率に現れているということが出来ます。

表3 中間応募状況

	11年度	12年度	13年度	14年度	15年度	16年度
募集校数	203校	202校	199校	196校	194校	193校
募集人員	26,336	25,773	25,514	25,016	24,574	23,886
応募人員(中間)	90,178	85,495	70,839	69,233	59,847	57,160
中間倍率	3.42倍	3.32倍	2.78倍	2.77倍	2.44倍	2.39倍
最終倍率	4.11倍	3.96倍	3.79倍	3.62倍	3.49倍	-
調査日	1月28日	1月28日	1月26日	1月28日	1月28日	1月28日

※世田谷学園が推薦のみ募集のため募集校数は1①より1校すくなくなくなります。

前年度と比較すると、下げ幅は狭いものの確実に倍率ダウンの傾向になっていることがわかります。ただ男子校は普通科・専門学科とも前年度並みを維持しています。

表4 男女校別、普通科・専門学科別中間倍率

		普通科			専門学科			計		
		募集人員	応募人員	倍率	募集人員	応募人員	倍率	募集人員	応募人員	倍率
男子校	16年度	3,356	8,758	2.61	1,000	1,238	1.24	4,356	9,996	2.29
	15年度	3,819	9,948	2.60	1,178	1,441	1.22	4,997	11,389	2.28
	14年度	3,887	11,689	3.01	1,343	2,366	1.76	5,230	14,055	2.69
女子校	16年度	6,419	7,781	1.21	626	602	0.96	7,045	8,383	1.19
	15年度	7,072	9,008	1.27	711	580	0.82	7,783	9,588	1.23
	14年度	7,488	12,333	1.65	711	836	1.18	8,194	13,169	1.61
共学校	16年度	11,371	36,140	3.18	1,114	2,641	2.37	12,485	38,781	3.11
	15年度	10,830	36,691	3.39	964	2,179	2.26	11,794	38,870	3.30
	14年度	10,537	39,194	3.72	1,055	2,815	2.67	11,592	42,009	3.62
計	16年度	21,146	52,679	2.49	2,740	4,481	1.64	23,886	57,160	2.39
	15年度	21,721	55,647	2.56	2,853	4,200	1.47	24,574	59,847	2.44
	14年度	21,907	63,216	2.89	3,109	6,017	1.94	25,016	69,233	2.77

## 一般入試状況

では、今春の一般入試応募状況を見ていきましょう。

推薦入試同様、優遇制度を設置した高校やその内申基準を下げた高校は前年度より多くの応募者を集める傾向がありますし、内申基準を上げた高校は応募者数を減らす傾向があるということも推薦入試同様です。

また、推薦入試でB推薦を導入した結果、受験生がそちらに流れ、一般入試の応募者が大幅に減ってしまった高校もありました。

以下、応募者数は最終応募者数。

### ● 優遇制度の基準値を変更した高校の応募状況

**東海大高輪台**・・・併願基準を男子5科22,女子23 男女23に。一般応募者数は男401 378人,女265 351人。

**東洋女子**・・・5科の基準を1ポイントダウン。応募者数は211 180人とむしろ減った。

**駒澤大学**・・・一般第一志望の基準を9科30or3科9 9科27or3科9と9科で3ポイントダウン。応募者数は,278 475人と約200人の増。

**専修大学附属**・・・9科の基準に5科も加える。条件が厳しくな,推薦入試では応募者は大幅に減ったが,一般入試では男子389 377人,女子215 184人と微減で留まる。新校舎は秋に完成予定。

このほか,**神田女学園**がB推薦を実施したため,一般入試の応募者が減ったこと,**共立第二**が併願優遇制度を設けたため応募者が増加したことなどは推薦入試の項で触れたとおり。

### ● このほか

**筑波大附属** 713 734人, **筑波大駒場** 132 145人, **お茶の水女子** 307 320人, **学芸大学附属** 690 705人というように,国立大附属は高倍率安定傾向が続いています。

また,**開成** 576 619人, **海城** 590 604人, **巣鴨** 164 213人, **桐朋** 189 239人, **明大明治** 615 564人, **慶応義塾女子** 521 497人, **国際基督教大学** 330 337人, **成蹊** 276 328人というように,トップ校も安定した入試を行っています。

私立高校の変動の激しさは,都立高と競合するこの次の学力層からになっています。